令和６年度　第５回富山県総合教育会議

日　時：令和７年１月９日（木）10:30～
場　所：県庁４階大会議室

次　　第

１　開　　会

２　知事挨拶

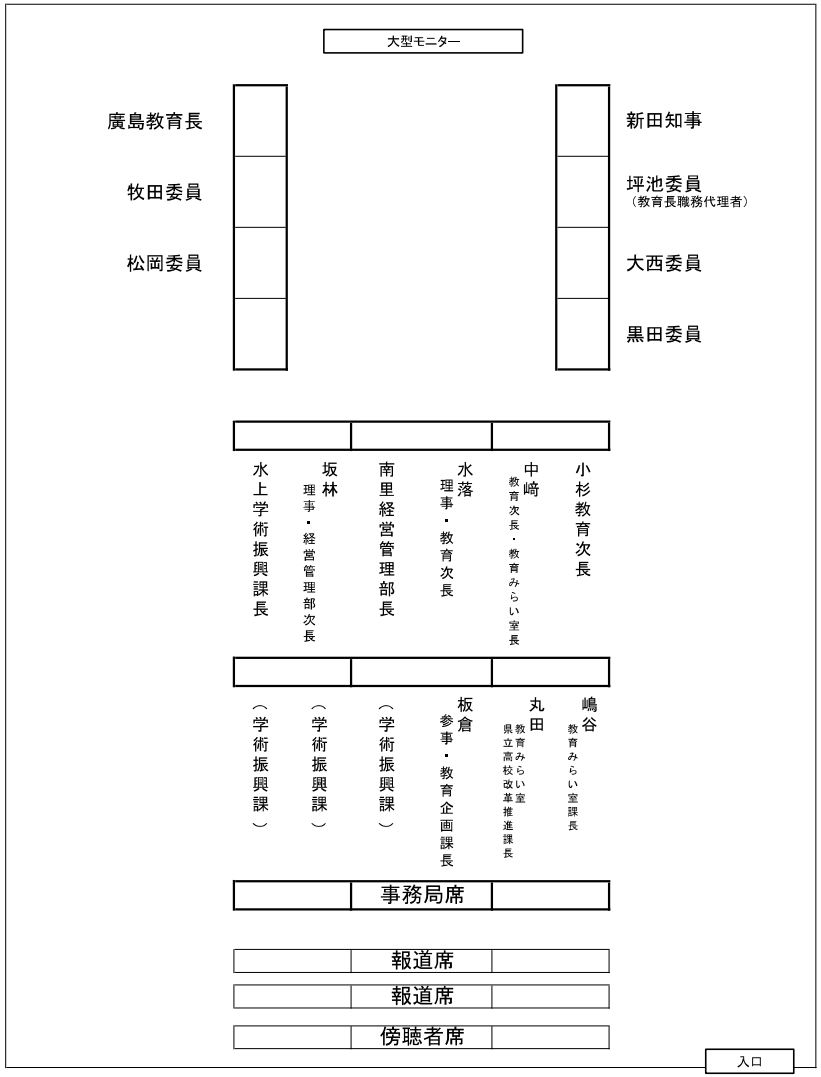
３　議　　事
（１）県立高校における教育振興について
○「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針（たたき台）
○ 基本方針策定までの流れ（案）
○ （報告）将来の県立高校に関するアンケート調査結果及び意見交換会

４　閉　　会

＜配付資料＞
資料１　「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針（たたき台）
資料２　基本方針策定までの流れ（案）
資料３　将来の県立高校に関する高校生とのアンケート調査結果及び意見交換会

令和６年度第５回富山県総合教育会議　配席図

日 時　令和7年1月9日（木）10:30～
場 所　県庁4階大会議室



令和６年度第５回富山県総合教育会議　出席者名簿

（敬称略）

（委　員）

職　　名	氏　　名	備　　考
富山県知事	新 田　八 朗	
富山県教育長	廣 島　伸 一	
富山県教育委員（教育長職務代理者）	坪 池　　宏	元富山県教育次長
富山県教育委員	大西　ゆかり	社会福祉士
富山県教育委員	黒 田　　卓	大学教授
富山県教育委員	牧 田　和 樹	会社社長
富山県教育委員	松 岡　　理	医師

資料１

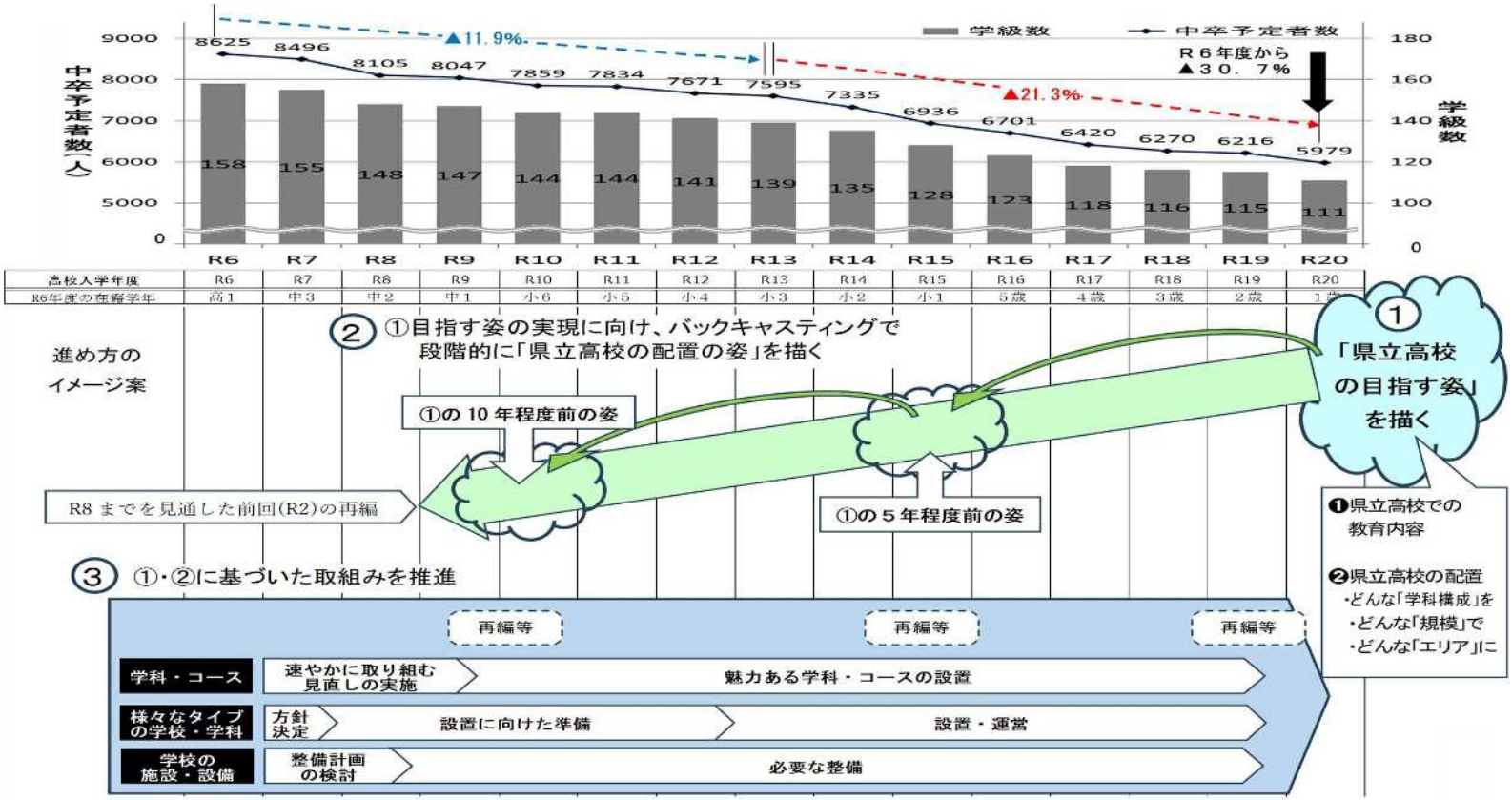
「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針（たたき台）

～学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり～

県立高校のあり方検討の進め方

・本県における中学校卒業予定者数は年々減少しており、現在１歳の子どもが高校へ入学する令和 20 年度には現在より３割以上も減少する見込となっている。

・こうした状況を踏まえ、今後の県立高校のあり方については、将来どのような教育を提供するのか明らかにして検討すべきというご意見が多かったことから、
①まずは、将来(令和 20 年度)の県立高校の教育内容、学科構成、学校規模の組合せと配置など「目指す姿」を描き、
②その５年前頃や 10 年前頃の「配置の姿」をバックキャスティングで考えたうえで、
③各段階に必要となる「再編等」の取組みを推進していくこととした。



目　次

Ⅰ．令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿（案）

１．県立高校を取り巻く状況の変化・・１
２．県立高校の基本目標・・・２
３．新時代とやまハイスクール構想（仮称）
（１）新時代とやまハイスクール（仮称）の開設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
（２）教育内容（学科構成）・・３
（３）学校規模・・４
（４）教育内容（学科構成）と学校規模の組合せ、配置数の目安・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

Ⅱ．「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

Ⅲ．「目指す姿」の実現に向けた検討方針（案）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

１．新時代ＨＳの開設、既存高校の再編統合の検討方針（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
２．学科・コースの改編等の検討方針（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
３．様々なタイプの学校・学科の設置の検討方針（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
４．施設・設備等の整備の検討方針（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
５．活力ある学校・組織づくり・・11
６．その他・・11

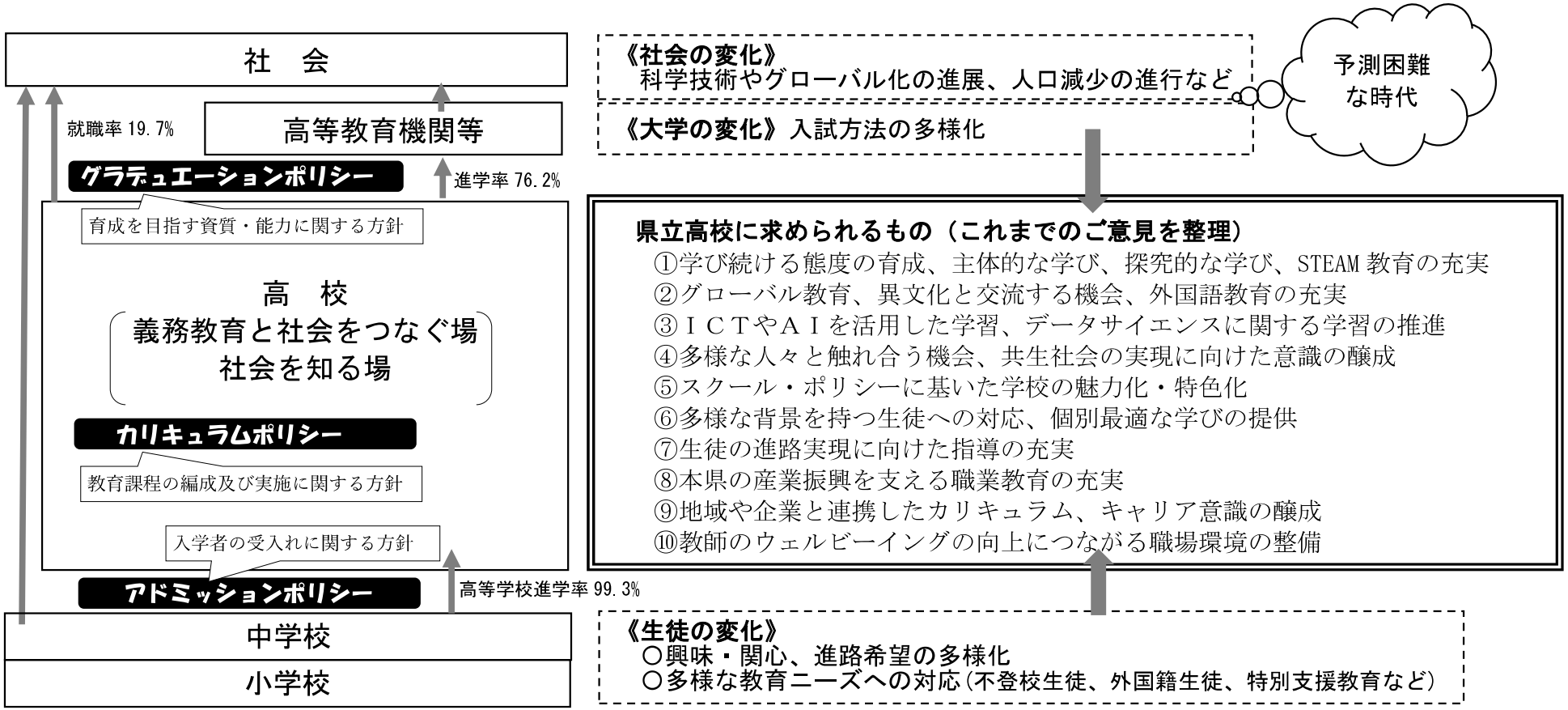
Ⅰ．令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿（案）

１．県立高校を取り巻く状況の変化

・高校は、「義務教育と高等教育機関・社会をつなぐ場」、「社会を知る場」として、これまでも各高校では、スクール・ポリシーを策定し、特色・魅力ある教育に取り組んできた。

・社会は科学技術やグローバル化の進展、人口減少の進行など、今後の予測が難しいほど大きく変化している。

・また、生徒の興味・関心や進路希望の多様化、不登校生徒や外国籍生徒等の多様な教育ニーズにも対応する必要がある。



進学率、就職率は令和５年度学校基本調査によるもの

２．県立高校の基本目標

・社会や生徒を取り巻く現状を踏まえ、令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の基本目標を定める。

・この基本目標を実現するため、現在の全ての県立高校（全日制）を再構築して新たな学校を開設する「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」を進める。

基本目標

時代に適応し、未来を拓く人材の育成

予測困難な時代において、生徒が社会の変化やニーズを的確に読み取り、
様々な人々と協働して社会参画できるよう、
個別最適な学びと協働的な学びを組み合わせながら、
生徒一人ひとりの生きる力とレジリエンスを育み、
「ウェルビーイング」の向上を図る。

全ての県立高校（全日制）を再構築し
新しい学校を開設する

「新時代とやま
ハイスクール
構想（仮称）」

３．新時代とやまハイスクール構想（仮称）

（１）新時代とやまハイスクール（仮称）（以下「新時代ＨＳ」という。）の開設

・新時代ＨＳは、基本目標の実現に必要と考えられる教育内容（学科構成）を組み合わせた大規模・中規模・小規模の学校で構成する。

・それぞれ特色のある新時代ＨＳを県内にバランスよく配置することにより、生徒に多様な選択肢を提供し、全ての生徒にとって、「学びたい、学んでよかったと思える県立高校づくり」を推進する。

教育内容
（学科構成）
普通系学科
総合学科
職業系専門学科

×

学校規模
大規模校
中規模校
小規模校

×

バランスの
取れた配置

＝

新時代とやま
ハイスクール
（新時代ＨＳ）

（２）教育内容（学科構成）

・新時代ＨＳで行う主な教育内容を８つに区分する。

・また、県立高校教育振興検討会議の提言で示された「様々なタイプの学校・学科」との親和性を整理する。

区分		教育内容	必要となる教育課程等	「様々なタイプの学校・学科等」との親和性			
				中高一貫教育校	国際ﾊﾞｶﾛﾚｱ認定校等	外国人生徒特別枠	全国募集
普通系学科	①スタンダード	共通教科の学習を主体として、学校の状況やスクール・ポリシーに応じた教育課程の編成	共通教科を主体とした科目の開設				
	②ＳＴＥＡＭ※	卒業後の高等教育機関での研究等を視野に入れた探究活動や教科横断的な学びを実践し、問題解決能力や創造力を育む。	探究活動を充実するための教育プログラムの実施	○			
	③グローバル	国際感覚を持って海外と関わる人材を育成するためのグローバル教育を実践する。	普通系専門学科（国際）の設置	○	○		○
	④未来創造	スポーツや芸術文化、データサイエンスなど特色ある普通系専門科目を重点的に学び、部活動の強化も図る。	普通系専門科目（音楽・美術・体育・情報など）の開設				○
	⑤地域共創	地域の企業や高等教育機関等と連携した教育活動を展開するなど、独自性のある教育を実践する。	独自性のある教育プログラムの実施				○
	⑥エンパワーメント（自己発見）	様々な理由から義務教育の内容について学習不足である生徒等が、基礎学力を習得し、自己肯定感を高め、生きる力を育むことができる教育を実践する。	基礎学力を習得するための学校設定科目の開設			○	
⑦総合学科		入学後のキャリア教育等を通して、自身の進路希望を明確にし、進路に合った学びを提供する。 普通教育と専門教育を選択履修することができる。	複数の専門科目の開設			○	
⑧職業系専門学科		進路を見据え、１年次から職業系の特定専門科目を履修し、各分野で即戦力となるスペシャリストを育成する。	デュアルシステム等の特別プログラムの実施				

※ＳＴＥＡＭ　Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(リベラル・アーツ)、Mathematics(数学)の５分野の学習により、問題発見・問題解決に生かしていくための教科横断的な教育

（３）学校規模

・新時代ＨＳは、大規模校、中規模校、小規模校で構成し、それぞれのメリットを活かした学校づくりを行う。

学校規模	大規模校 （１学年 400～480 人）	中規模校 （１学年 200～240 人）	小規模校 （１学年 120 人以下）
設置のねらい	・令和 20 年度以降も見通した拠点校として大規模を設置する。 ・複数の学科が併設され、多くの科目から選択履修でき、多様な考え方に接することで他者と協働して社会参画できる力をより高める。	・現在の平均的な学校規模より大きくすることで、教員配置及び開設科目、部活動の数等を充実させ、生徒の選択肢の幅を広げる。	・小規模校ならではの特色ある教育活動を展開する。 ・長期的なニーズや、通学時間の観点も踏まえた地域バランスなどに配慮し、生徒の選択肢を確保する。
施設等	・授業の展開等を考えると、現在の高校施設では運営が難しいこと、令和 20 年度以降も見据え、県内の拠点校として長期的に使用することなどを考慮し、新築等で対応する。	・現在の高校施設の活用を基本としつつ、必要に応じて施設整備の改修等を行う。	・現在の高校施設の活用を基本とする。

（４）教育内容（学科構成）と学校規模の組合せ、配置数の目安

・学校規模ごとのねらいを考慮し、学科構成パターンを設定する。

・現行の公私比率をベースとして、令和 20 年度における県全体の募集定員は 4,000～4,500 人程度を見込むとともに、１校あたりの平均募集定員はそれ以降の生徒数の減少を見越して、現在(約 180 人)より多い 200～220 人程度に設定する。

・これにより学校数は、全県で 20 校程度を目安とする。

・全ての学校を再構築して新しい学校を開設することとし、より広い範囲での学科改編が可能となるよう、配置は東西２つのエリアで検討する。

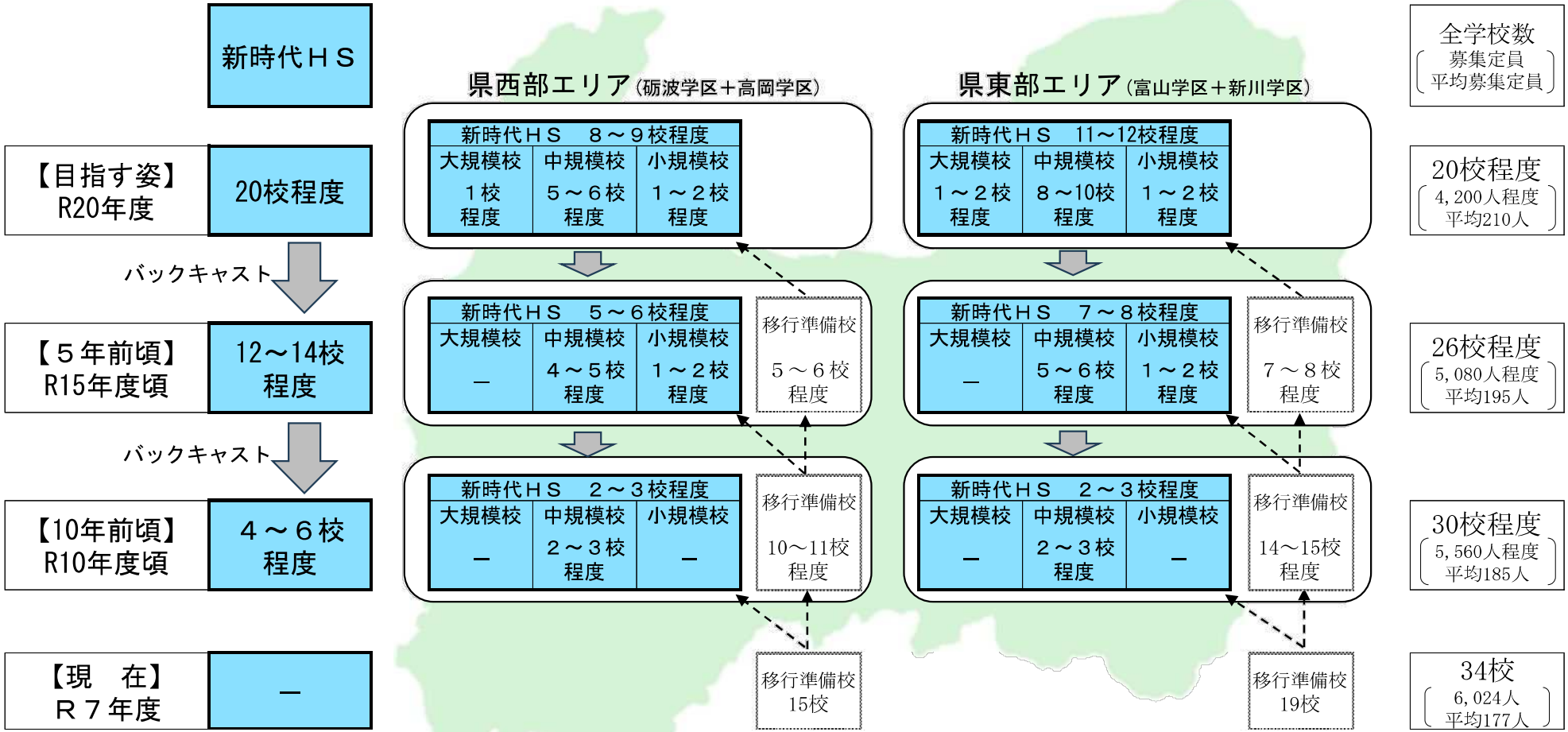
学校規模			大規模校（１学年400～480人）				中規模校（１学年200～240人）					小規模校（１学年120人以下）	
学科の構成パターン			（A）	（B）	（C）	（D）	（E）	（F）	（G）	（H）	（I）	（J）	（K）
学科	普通系学科	①スタンダード	○	○	○			○		○			
		②ＳＴＥＡＭ	○		○		○						
		③グローバル	○		○		○						
		④未来創造	○	○	○			○				○	
		⑤地域共創	○	○	○			○				○	
		⑥エンパワーメント（自己発見）						○	○				
	⑦総合学科								○				
	⑧職業系専門学科			○	○	○				○	○		○

全県（20校程度）	募集定員目安※2 4,200人程度	２校		０～１校	７～８校	２校	２校	２～３校	３～４校
		２～３校			１３～１５校				
県東部エリア※1（11～12校程度）	募集定員目安※2 2,520人程度（60%）	１～２校			８～10校				１～２校
県西部エリア※1（８～９校程度）	募集定員目安※2 1,680人程度（40%）	１校			５～６校				１～２校

※１　県東部エリア(新川学区、富山学区)、県西部エリア(高岡学区、砺波学区)
※２　募集定員目安は、現行の公私比率 70.8%で試算した。

Ⅱ．「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」（案）

- 令和 20 年度までに、全ての高校が新時代ＨＳに生まれ変わる必要がある。
- このため、令和 20 年度において、20 校程度の設置を目安とする新時代ＨＳの学校数について、その５年前頃（令和 15 年度頃）まで、10 年前頃（令和 10 年度頃）までに目指す「配置の姿」を描く。
- 新時代ＨＳを計画的に開設できるよう、現在の全ての県立高校（全日制）を「移行準備校」に位置づけ、学科改編等の準備を進める。
- 生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な選択ができるよう、エリアごとの募集定員の目安を踏まえ、様々な学科構成や規模の学校をバランスよく配置する。

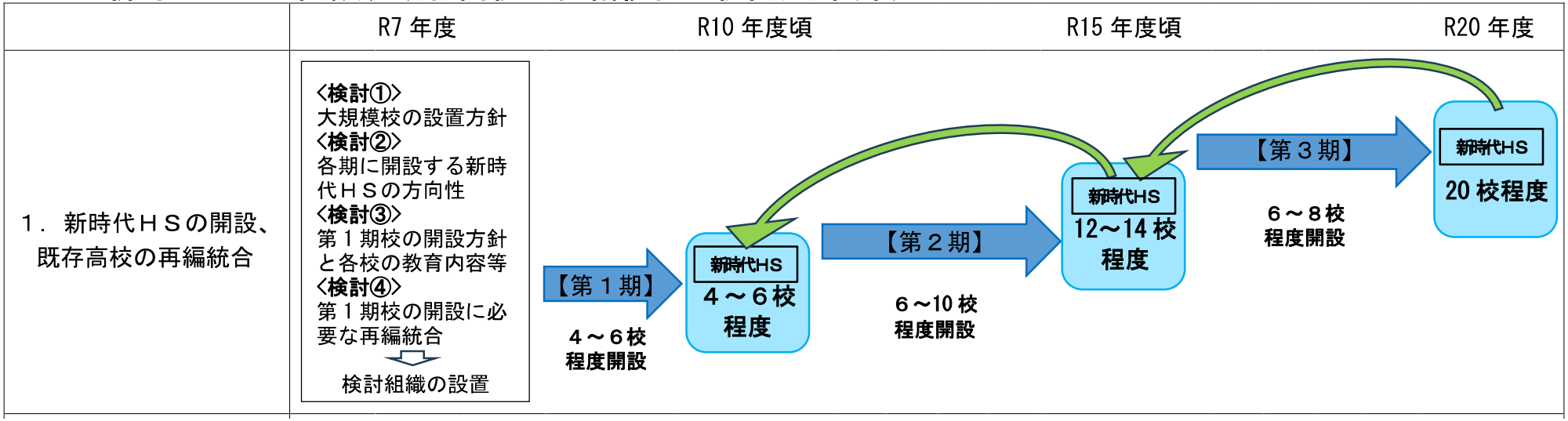


Ⅲ．「目指す姿」の実現に向けた検討方針（案）

「令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿」の実現に向け、令和 20 年度までに新たな新時代ＨＳを順次開設していくことになることから、「１．新時代ＨＳの開設、既存高校の再編統合」、「２．学科・コースの改編等」、「３．様々なタイプの学校・学科等の設置」、「４．施設・設備等の整備」、「５．活力ある学校・組織づくり」について、計画的に進める。

	R7 年度	R10 年度頃	R15 年度頃	R20 年度
１．新時代ＨＳの開設、既存高校の再編統合	**〈検討①〉** 大規模校の設置方針 **〈検討②〉** 各期に開設する新時代ＨＳの方向性 **〈検討③〉** 第１期校の開設方針と各校の教育内容等 **〈検討④〉** 第１期校の開設に必要な再編統合 ⇩ 検討組織の設置	【第１期】 **４～６校程度開設** 新時代HS **４～６校程度**	【第２期】 **６～10 校程度開設** 新時代HS **12～14 校程度**	【第３期】 **６～８校程度開設** 新時代HS **20 校程度**
２．学科・コースの改編等	**開設方針決定** → **新時代ＨＳ開設に伴う学科・コースの改編** **直ちに取り組む学科等の魅力化**			
３．様々なタイプの学校・学科の開設	**（１）中高一貫教育校の検討・調整・方針決定（～開設準備～開設）** **（２）その他の検討・方針決定　（　～　開設準備　～　開設　）**			
４．施設・設備等の整備	**（１）大規模校の設置方針決定　～　整備構想策定　～　計画策定　～　工事　～　開設** **（２）中・小規模校として利用する既存施設の長寿命化・増改築の方針決定～計画策定～工事～開設** **（３）県立高校の再編統合に伴い不使用となった校舎、跡地の有効活用の検討**			
５．活力ある学校・組織づくり	**（１）民間人材の活用や地域等との連携強化、教育効果を高める学校運営の検討（～実施）** **（２）教員のウェルビーイングの向上、教員確保のための環境整備**			

１．新時代ＨＳの開設、既存高校の再編統合の検討方針（案）



（１）新時代ＨＳは、次の３つを区切りとして順次開設することとし、それぞれの期において必要となる県立高校の再編統合を実施する。

・第１期（令和 10 年度頃まで）は、大規模校の設置方針を検討したうえで、速やかに対応すべき教育課題※の解決を図る中規模校を開設する。

※グローバル教育、情報教育、誰一人取り残さない教育など

・第２期（令和 15 年度頃まで）は、大規模校の開設準備を進めるとともに、中・小規模校の充実を図る。

・第３期（令和 20 年度まで）は、大規模校も含めて全て開設し、「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」を完成させる。

（２）令和７年度には、「①大規模校の設置方針（学科構成、設置場所など）」、「②各期に開設する新時代ＨＳの方向性」、「③第１期校の開設方針と各校の教育内容等」、「④第１期校の開設に必要な再編統合」について検討する。

（３）（２）を検討するための組織として、令和７年度に「新時代とやまハイスクール構想検討会議（仮称）」を設置することとし、そこでの意見を取りまとめ、総合教育会議に報告する。なお、第２期以降の開設に関する検討組織等については、必要に応じて別途決定する。

２．学科・コースの改編等の検討方針（案）

	R7 年度	R10 年度頃	R15 年度頃	R20 年度
２．学科・コースの改編等	開設方針決定 → 新時代ＨＳ開設に伴う学科・コースの改編			
	直ちに取り組む学科等の魅力化			

（１）新時代ＨＳの学科・コースは、前述の８区分の学科をベースに、必要に応じて、それらの学科を組み合わせた形で設定する。

（２）第１期校から第３期校までの開設にあたっては、それぞれの時点における教育環境の変化や教育ニーズ等を十分踏まえて学科・コースを設定することとし、従前の学科・コースの魅力を一層高めるという観点から改編等を行う。

（３）現在学ぶ子どもたちのために、直ちに学科・コースの見直しを行う必要がある場合は、「こどもまんなか」の視点から、第１期校の開設を待たず、速やかに学科改編等を行うこととする。

〇魚津工業高校・砺波工業高校の工業科の一括募集及び改編など

３．様々なタイプの学校・学科等の開設の検討方針（案）

	R7 年度	R10 年度頃	R15 年度頃	R20 年度
３．様々なタイプの学校・学科の開設	（１）中高一貫教育校の検討・調整・方針決定（～開設準備～開設）			
	（２）その他の検討・方針決定　（　～　開設準備　～　開設　）			

（１）新時代ＨＳの開設にあたっては、前述の８区分の学科との親和性を踏まえ、「様々なタイプの学校・学科等」の開設についても検討することとする。

（２）「中高一貫教育校」は、第２期での開設を目指し、その目的や役割・機能を十分に整理し、市町村教育委員会等の関係機関とも協議しながら、開設に向けた検討を進める。

（３）「国際バカロレア（IB）認定校等」は、第１期にグローバル教育に重点を置く学校を開設し、その取組みを検証しながら、認定校のニーズや効果を整理し、導入の必要性等の議論を重ねる。

（４）「外国人生徒に係る特別入学枠」は、第１期での開設を目指し、義務教育における外国人生徒の現状やニーズの把握に努め、入学後の教育課程や日本語指導等の支援体制に関する課題も整理しながら、導入に向けた検討を進める。

（５）「全国募集」については、まず南砺平高校での実施が軌道に乗るよう、南砺市等と連携した取組みを進めることとし、第２期にその効果や課題等も整理し、対象校拡大の可能性を地元の意向等も踏まえて検討する。

４．施設・設備等の整備の検討方針（案）

	R7 年度	R10 年度頃	R15 年度頃	R20 年度
４．施設・設備等の整備	（１）大規模校の設置方針決定　～　整備構想策定　～　計画策定　～　工事　～　開設 （２）中・小規模校として利用する既存施設の長寿命化・増改築の方針決定～計画策定～工事～開設 （３）県立高校の再編統合に伴い不使用となった校舎、跡地の有効活用の検討			

（１）令和７年度に検討予定の「大規模校の設置方針（学科構成、設置場所など）」を踏まえ、大規模校の設置に伴い必要となる新築等や設備の整備構想を決定のうえ、計画策定、工事を着実に進め、第３期に大規模校を開設する。

（２）中規模校・小規模校については、第１期校から第３期校までのそれぞれの開設方針等に基づき、校舎に関する検討を行うこととし、既存施設の長寿命化対策や増改築など必要となる施設や設備等の整備構想を決定のうえ、計画策定、工事を着実に進めて開設する。

（３）県立高校の再編統合に伴い不使用となった校舎、跡地の有効活用についても検討する。

５．　活力ある学校・組織づくり

	R7 年度	R10 年度頃	R15 年度頃	R20 年度
５．活力ある学校・組織づくり	（１）民間人材の活用や地域等との連携強化、教育効果を高める学校運営の検討（～実施） （２）教員のウェルビーイングの向上、教員確保のための環境整備			

（１）活力ある新時代ＨＳの実現に向け、民間人材の活用や地域の企業・高等教育機関など外部との連携強化に加え、教育効果を高める学校運営について検討する。

（２）生徒によりよい教育を提供できるよう、教員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立させ、ウェルビーイング向上を図るとともに、教員確保のための環境整備を推進する。

６．その他

（１）「定時制・通信制高校」については、多様な生徒に対応した教育を確保する観点から、現在の配置を維持することを基本としつつ、今後の新時代ＨＳ開設の検討の中で、その位置付けや全日制高校との関係について整理しながら、必要な検討を進める。

（２）高校時点での県外進学が増加傾向にある中、建学の精神のもとに特色ある教育を実践される「私立高校」と協調を図りながら、富山ならではの魅力ある高校づくりを進める。

資料２

基本方針策定までの流れ（案）

	総合教育会議の進め方（案）	地域の様々な声をお聞きする方法
令和6年12月		将来の県立高校に関する高校生との意見交換会 将来の県立高校に関する高校生及び教員へのアンケート調査
令和7年1月	第５回（本日（１月９日）） 「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針（たたき台）の協議 「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針（素案）の整理	○地域の教育を考えるワークショップ（４学区×１回） ○若手教員グループトーク 将来も教育現場での活躍が期待される若手教員から意見を聞く。（30 名程度） ○地域の教育を考える意見交換会（４学区×１回）
２月		
３月	第６回 「新時代とやまハイスクール構想（仮称）」基本方針の協議・決定（予定） Ⅰ．令和 20 年度までに実現を目指す県立高校の姿 Ⅱ．「目指す姿」から逆算的に考える「配置の姿」 Ⅲ．「目指す姿」の実現に向けた検討方針	

資料３

将来の県立高校に関するアンケート調査結果

１．調査の概要

（１）目　的

この調査は、第４回総合教育会議で議論した「県立高校のあり方」に関して、広く現役高校生や現場教員等の意見を聞き、基本方針の作成にあたり参考とすることを目的とする。

（２）対象者

県立高校(全日制・定時制) ２年生(以下「高校２年生」という。)	6,073 人
県立高校(全日制・定時制) 校長、教頭、教諭、養護教諭及び実習助手（以下「教員等」という。）	1,837 人

（３）方　法

第４回総合教育会議で議論した「県立高校の目指す姿」(案)を掲載したＨＰの周知と併せ、Ｗｅｂアンケートフォームにて実施。

（４）時　期

高校２年生　令和６年 12 月２日(月)～12 月 20 日（金）
教　員　等　令和６年 11 月 25 日（月）～12 月 20 日（金）

（５）回答の状況

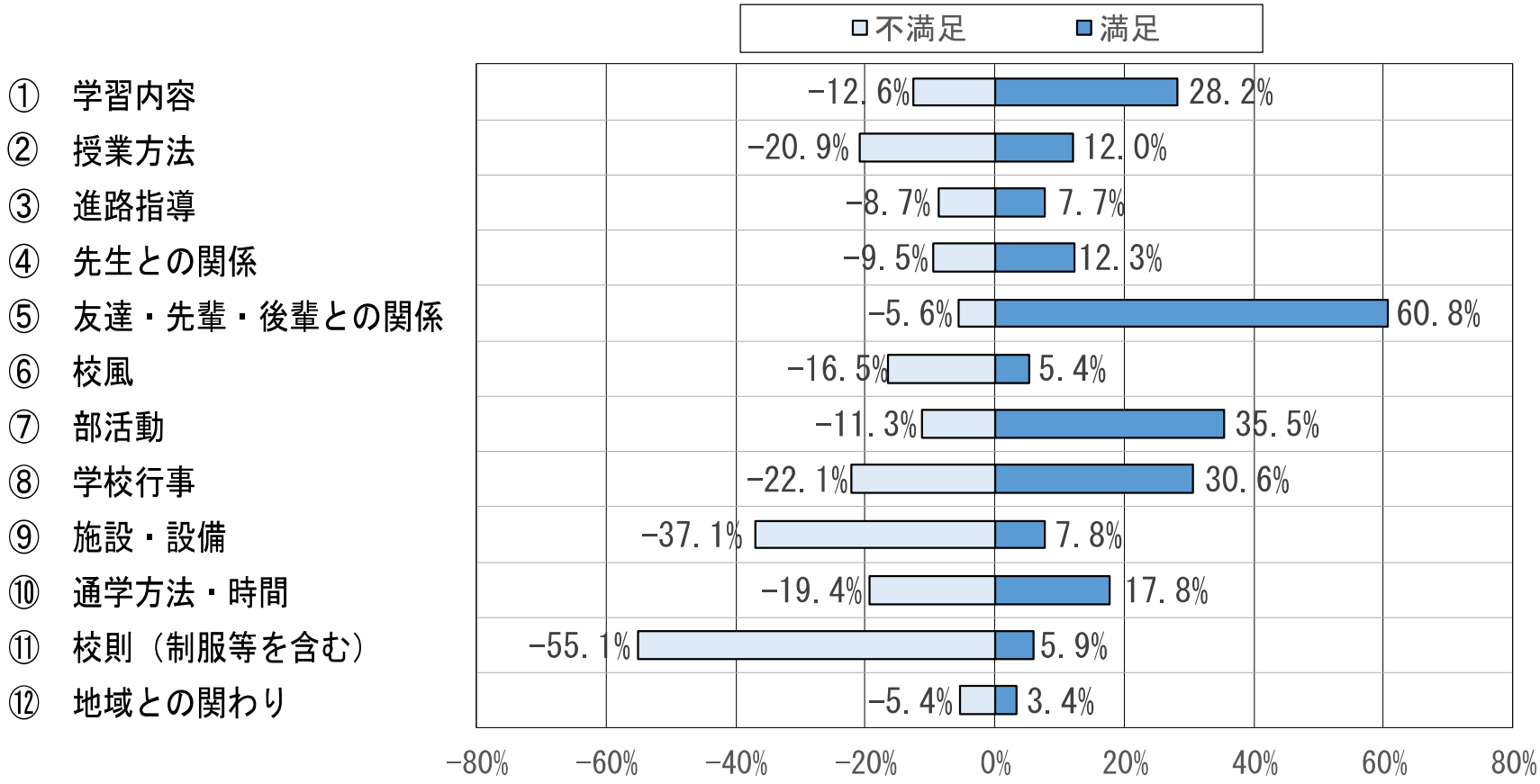
	対象者数	回答数	回答率
高校２年生	6,073	4,814	79.3%
教　員　等	1,837	720	39.2%
合　計	7,910	5,534	70.0%

２．調査結果

（１）学校生活について【高校２年生】

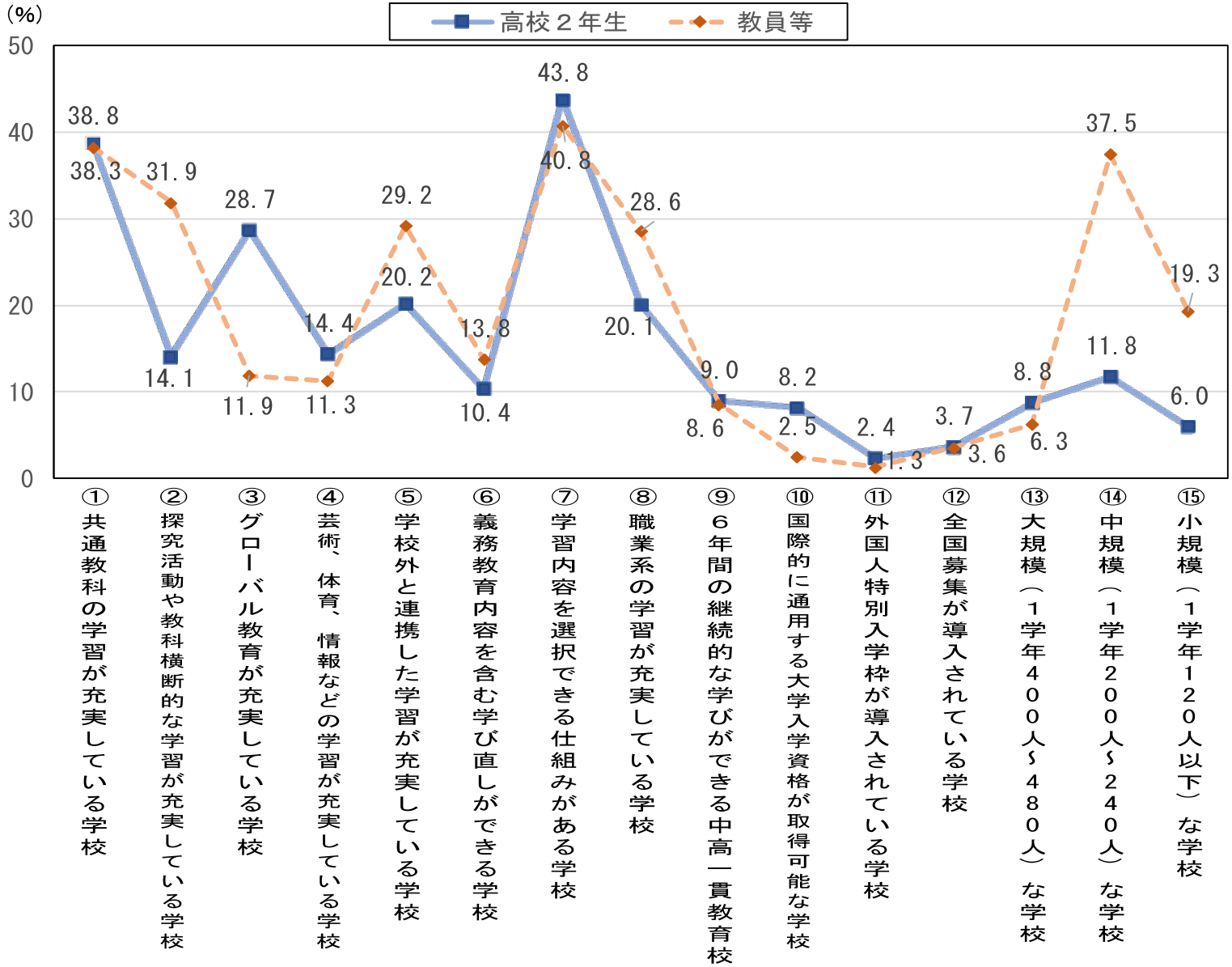
・あなたの学校生活の中で、充実感や満足感を得られているものを３つまで選んでください。

・あなたの学校生活の中で、満足していないものを３つまで選んでください。



（２）将来必要と思う県立高校【高校２年生・教員等】

将来の高校生のために、どのような県立高校が必要だと思いますか。次の中から必要だと思うものを３つまで選んでください。



（３）県立高校の「目指す姿」などに対する主な意見（自由記載）【高校２年生】

内容	主　な　意　見
目指す姿	様々な背景を持つ人たちにも配慮されていていいと思った。
	学校外の地域や企業などと連携することはとても心強くて良いと思う。
	高校を減らすのはよいと思うが、一つの地区に工業系と普通科系を一つずつは設置すべきだと思う。
	様々なカリキュラムに対応し、多様な進路の幅を持たせてくれるところがいいと思った。
	立地条件がよく、通いやすい学校や、特色ある普通科高校が必要だと思う。
	現在必要とされているものの実現が令和 20 年度では遅いと思う。その時にはまた違う力が求められていると思う。
	富山地区、高岡地区以外の学生は、高校が減ることで通学時間が長くなったり、選択肢が狭まりそう。
	授業が充実し、生徒が自ら学ぼうと意識できる興味のそそられる授業ができる学校がよい。
	全体的にスポーツが他県に比べて弱いので、もっと部活動の設備を整えるべきだと思う。富山県はどのスポーツにおいても中学校時代に全国で成績を残した者は県外に出る人が多いように感じる。設備を少し整えるだけでも、実力者が踏みとどまって富山のスポーツ強化につながるのではないか。
	「富山ならではの教育を通したウェルビーイングの向上」について、社会との繋がりを持つ事は必要だとは思うが、学校のカリキュラム（生徒のニーズ）に合わせて企業を選ぶべきだと思う。
	小規模な高校でも、その地域にとって必要なものとなっているのではないか。
	国際バカロレア教育や中高一貫校設置などを進めてほしい。
	富山は普通科が多く、○○コースと選択できるが特色があまり感じられないのでどれも同じような学校に思える。 今後は国際色豊かだったり、芸術に特化したりと学校の色が分かっていろいろ選択できる学校があったらいいと思う。
その他	生徒が楽しく過ごすことができ、「充実した最高の学校生活だったな。この勢いでこれからの社会生活も頑張ろう」と思える環境が整備された学校がよい。
	県外からも生徒が通えるような設備の整ったオンリーワンな学校を造っていく必要があると思います。
	筆記だけではなくパソコンやタブレットの使用を増やす。
	高校再編よりも先生方の指導方法の見直しをしてほしい。
	暖房をつける、教室やトイレがきれいなど、環境をもっと重視してほしい。部室もすごく寒くて辛い。生徒の気持ちを考えてほしい。
	修学旅行は必要だと思う。
	留年制度のない学校、メイクを禁止しない学校、男子の長髪を禁止しない学校、時代の変化に柔軟に適応できる学校、個性が尊重される学校、将来にあった教育を受け入れる学校、ブラック校則がない学校、自由な学校。
	頭が固い、古い考えの校則の学校が多いので、それをなくした方が良いと思う。

（４）県立高校の「目指す姿」などに対する主な意見（自由記載）【教員等】

内容	主　な　意　見
目指す姿	これまでの統廃合の延長線上ではなく、抜本的な改革をうたっている点、新築も含めて高校設置を考えている点がよい。
	数合わせ的な再編ではなく特色ある高校を設置しようとする考え方はよいと感じた。新しい高校を作ろうとするワクワク感がある。
	高校を地域の枠で設置するのではなく、自分の学びたい学科、特色のある高校を選ぶことを大切にしていこうとしている方針にはとても共感します。さまざまな利害関係や価値観が存在し県民が納得するまでには時間を要すると思いますが、とことん議論を重ねて現在の県立高校が抱える問題を少しでも改善していければと願っています。
	新たな学校を20校つくるという発想で良い。個々の学校が価値創造できる特徴ある学校づくりを目指すべき。
	目指す姿をはっきりと示したことは大変良いと思う。20校になるとのことだが、小出しにせず、最終形態とその過程までのプランも示していただきたい。
	あまりにも大規模に変え過ぎなのではないか、と率直に感じた。これまで各校が築いてきた様々な伝統が引き継がれなくなるのも残念だと感じる。
	20校に削減はやり過ぎな感じがする。大規模校は学年の統括が困難であったり、個に対応した指導が難しくなるので、現場の現状に合っていないと思う。
	中学生が進学する高校を選ぶ際には通学しやすさを最も重視することが明らかになっています。将来の高校配置を考える際、交通の利便性もセットで考えていただきたく思います。
	変化が激しく予想困難な時代を生きていくために、地域や企業、大学などと連携し、教室で習得した知識をフルに活用することが必要だと思う。学ぶ意義や知識は使うものということを知る。
	時代のニーズに応じた学科･コース･系列等を設置することや、教育内容を明確にすることで、学校の特色化を図ることは必要だと思います。一方で、ある分野に特化することにより定員割れが生じることも心配されます。
	複数の学科構成は、正直厳しいのではないか。学科の動きが異なり、学年や学校としての動きが統一しにくい。それが大規模校になればなるほど、より大変になるのではないかと思う。
	さまざまな選択ができることが良い。一度失敗しても、やり直しができるシステムが大事だと思う。
	生徒それぞれが自分の進路に応じた教育を受けられる環境は良いと思う。高校の先生方が、これらを受け入れられるだけの資質と能力が求められてくるので、先生方への研修体制が必要となってくる。中学校の先生も同様に、多様な進路指導の研修が必要である。
	教員を目指す人々へのアピールともなるよう、教員のウェルビーイングに関する記述を増やしてもよいのではないかと感じた。
	理想は大変すばらしい。しかし、それを現場に丸投げされても困る。しっかりした方針と人員の確保が担保されないと、現場が疲弊する。
基本目標	「予測困難な時代において社会の変化やニーズを読み取り、社会参画できる」ようにするためには、考えさせるだけではなく考えたことを実践的に取り組もうとする行動力を育てる必要があると考える。
	これからの時代のニーズに対応できる人材を育てることに加え、地元の産業を支える人材の両方をしっかりと育てることが必要だと思います。
	「生徒が学びたい、学んでよかったと思える 高校づくり」のためにも、まずは生徒に自信をもたせることが必須と考えます。受験科目のみでなく、幅広く生徒の生きる力となるような科目もしっかりと学べる事が大切では、と考えます。
	目標を達成するためには教員自身も学び続けなくてはいけないが、現状はそれができるだけの十分な環境・体制とはいえないことが問題。

内容	主　な　意　見
基本目標	「富山ならでは」と独自性にこだわり、おかしな目標にならないようにしてほしい。
	各高校がオンリーワンである必要はないと思う。
	時代の流れや社会で求められていることからかけ離れないように子供たちが学びを自分事として考えて基本目標を実現できるようにしてほしい。
	将来の学びにつながるしっかりした基礎学力を身につけさせたいです。また、すでに（1）にありますが「レジリエンスを育む」ような教育が必要だと考えます。どんな状況におかれても、たくましく、柔軟に、元気に生きていけるような子どもを育てていければと思います。
	今後、地域の産業問題を分析し、デジタル技術を用いて解決策を提案できる能力や、環境問題や食料問題など、グローバルな課題に対する理解を深め、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成に重点を置く必要があると思われます。
	方向性や興味関心をおおよそ考えておく必要はあるが、多様な文化に触れ合うことで考え方が変わることはあるし、変わっても良いと思う。
学科等	普通科系学科の区分にこれからの時代に必要な主な教育内容が盛り込まれており、また大規模、中規模、小規模校の利点が組み込まれており、生徒の選択肢が確保されている点が良いと感じた。
	職業系専門学科を設置し、専門分野で活躍できるスペシャリストを育成することは大変良い。しかし、将来の進路先に大きく影響する専攻分野を中学生の段階で選択させるのは難しいのではないかと思います。高校入学後に学科選択ができる「一括募集」は有効な手立てだと思います。
	地域や企業と連携することはどんどん進めるべきだと思う
	全国的に少子化、国際化が進む中で、富山県も違わずであり、その中で学びたいことに特化した教育課程は必要だと考えます。
	富山県には、中高一貫の公立校が無いので、将来的に設置されれば良いと思われる。
	国際バカロレア認定校の導入ありきの姿勢はいかがなものか。県民、教員のコンセンサスが十分には醸成されていないし、準備不足。
	少子化が進むにつれて、将来的には全国募集、外国人生徒特別枠は必要になってくるように感じる。
規模	大規模校の設置に興味があります。大規模校ならではの充実した教員の配置、多様な生徒がともにな学ぶ場など、メリットを生かせるような学校になればよいと感じる。
	大規模校が必要なのか。中規模・小規模校で、生徒一人ひとりに目が行き届くほうが良いのではないかと思った。
	人は一人では成長しない。他者と関わることで，成長していく面は否定できない。ゆえに，ある程度の学校規模は必要と思う。
	小規模校は教職員が少ないため通常の業務を行うだけで精一杯で、「特色ある教育」を行う余裕がない。「特色ある教育」をする代わりに部活動をしない等、思い切った業務の見直しが必要。小規模なら「生徒一人ひとりが手厚い指導が受けられる」は幻想であり、現実には教職員の時間外無償労働に依存しなければ成り立たない。校舎の清掃や維持管理もままならないのが実情である。地域からの様々な要請にも応えきれない。
	小規模校３～４校となっているが、もっと増やした方がよい。生徒の通学時間を考慮するため。また、大規模校になじめない生徒もかなりの数が存在する。小規模校できめ細やかな指導を受けた方が効果的である。

将来の県立高校に関する高校生との意見交換会

１．開催概要

（１）日　時

令和６年１２月１７日(火)16：30～17：00

（２）参加者

知事、教育長、高校生とやま県議会参加の高校生（県立高校、私立高校、特別支援学校より）４５名

（３）方　法

参加生徒に事前に質問項目を示し、各学校で話し合った意見を書面にまとめた上で意見交換会に参加

２．主な意見（当日の発言及び書面で提出された回答より）

（１）「県立高校の目指す姿（案）」では、複数の学科があり多くの仲間と交流できる規模の大きな学校（１学年 400～480 人）の設置を検討しています。このような学校をどう思いますか。また、どんな学校になるとよいと思いますか。

主　な　意　見
自分の高校は普通科と専門学科がある複合的な高校だが、他学科の授業を受けられる点が最も魅力的であると思う。目指す進路に向けて専門性を高めることができる。多くの学科を有する高校には、このような制度を採り入れればよいと考える。
多くの仲間と交流できる点、や複数の学科があることで選択の幅を広げられる点、コミュニケーション能力を向上することができる点など、利点がある。
より多くの人と３年間接することができるので、コミュニケーション能力の向上だけでなく、小さな社会としてそれぞれ異なる考えや価値観を知ることで人格形成につながり、生徒一人一人のウェルビーイングにつながるため良いと感じた。
規模の大きな学校があるといいと思う。規模が大きいほどより多くの生徒と学校で共同生活をするため、多様な価値観をもった生徒と交流する機会が増え、将来世の中に出て様々な人と関わる上で生かされる経験ができる。
大規模校の良さはあると思うが、みんなが入学したいとは限らないので、小・中規模校も残してほしい。学科の選択肢と学校の選択肢は多い方が間違いがなくなると思う。
人数が多いことで、一人一人を見る機会は減りがちになるかと思う。小規模校と比べて遜色のない個人への目があればいいなと考える。
人数が多いと、授業についていけない生徒がいるから、そんな生徒が学びやすい環境を作ってほしい。
人が多く集まるため、人間関係でのトラブルが発生したり、人に流される人が多くなったりすると思う。
わざわざ規模の大きな学校にせずとも、中規模校同士の繋がりを作れば多くの人と交流できると思う。
工業科など、他学科の生徒が学んでいる内容も知りたいと思うので、多学科併設であると、別の専門科目を学ぶことで別に視点が得られるので、複数学科設置にも賛成。
多くの生徒が様々な地域から通学することになると思うので、不便な場所からも通学がしやすいように駅の近くなど交通手段の便利な場所にあるとよいと思う。
通学範囲が広がることを考慮すると、学校は駅から近い場所に設置されることが望ましい。
部活動の面で、大規模校ならではの特徴（例えばホッケーのようなマイナースポーツ）を出すことができればよいと思う。
部活動の人数が増え、部活動の質が良くなり、交流が活発になると思う。
規模の大きな学校の設置はいいと思う。人数が多い学校にすることで、たくさんの行事ができると思う。球技大会や修学旅行、体育大会など人数が多いと多学年との交流も充実し、より楽しい行事になると思う。
学校行事では、一人一人の活躍の場が限られると思うので、その点を配慮すれば、人数が多くても充実した学校行事が行える学校になると思う。
人数が多い分、行事などで係や役割分担のない生徒が現れる可能性があり、一人一人が活躍する場や機会が少なくなるなどデメリットもある。
採算面で小規模や中規模では設置が難しい食堂も、大規模校であれば設置が可能である。

（２）中学・高校の６年間を継続的に学ぶことができる中高一貫教育校についてどう思いますか。どんな学校であればその学校で学びたいですか。

主　な　意　見
高校生が中学生に教えたり、中学生は高校生の姿を見ることで、中学生は近い将来を見通すことができ、高校生も手本となるべきという思いから、よい緊張感を持って学校生活を送れる。
６年間通わなければならないのであれば、小学校の時点で高校のことまで考えなければならない。
一般的な中学校や高校にはない、例えば海外留学や専門家を招いたワークショップなどのカリキュラムが用意されており、幅広くも深い知識、学びが得られる中高一貫教育校であれば、ぜひその学校で学びたい。
公立の中学校のカリキュラムでは進むのが遅すぎると感じる人もいれば、十分だと思う人もいるので、県立の中高一貫校があれば、選択の幅が広がって自分にとって良い教育を受けられる子ども達が増えると思う。
授業進度が早くなり、授業についてこれない生徒が増えるが、学力に自信がない生徒に対しては、授業の進度や内容に配慮し、個々の学習状況に応じた支援体制が必要だと考える。
高校受験がないため、本来あるべき緊張感が薄れ、勉強に向き合うきっかけがなくなるのではないか。
固定化された人間関係の中で過ごすよりも、中学、高校と別の人たちと関われる方が、成長できると思う。
大きな変化がなく、ゆとりある環境で６年間過ごせること、好きなこと、得意なことに集中できるという面ですごく魅力的。
６年間同じメンバーでやっていくので、仲良く暮らすことができる反面、どうしても人間関係のトラブルがあるので、先生方などでカウンセリングなどの安心した相談の機関を設けるといいと思う。
入学後に進路希望が変わったら、いろいろ大変そう。転入／転出の仕組みが必要。

（３）今後も生徒数が減少していく中で、県立高校がどのように進化していけばよいと思いますか。

主　な　意　見
他校との交流や合同活動を増やすことで、学校外の人たちとの人間関係を築く場があるとよいと考える。
「目指す姿」にあるように「様々な学科構成×様々な学校規模＝幅広い選択肢の提供」していくことが、未来の高校生のためには重要だと考える。生徒一人一人に合った授業を受けることができれば、生徒たちが持つ能力を十分に引き出し、様々なことへ挑戦する手助けをすることができると考える。
特色のある学科があれば、県内生徒がふるさと富山への愛着を深め、将来的に地元に根付く可能性が高まるのではないか。
商業科、工業科、農業科等の学科が一つに集まった学校があったらいいと思う。
選択授業を増やして、得意な教科や好きな授業をもっと学ぶ。生徒の希望や将来の職業像が変化していく時代だから、いろんな選択ができる自由度があるといい。
色々なタイプの高校を設置する（多様化）。部活動強化型やＩＣＴ情報特化型の欧米風（制服やクラスの概念がない）型など、学ぶ内容だけではなく、設備や学校規模、校風など学校の特徴がはっきりしている。
部活など生徒たちが意見を出し合って、行事などやりたいことを作り上げていける学校になればよい。
生徒会の権限を大きくするなど、生徒が主体的に学校運営に関われる、生徒の意見がより反映できる学校になるとよい。

参考資料

県外視察

【大阪府立東淀川高等学校】（大阪府大阪市淀川区）

① 学校概要

・全日制普通科８学級 320 人（うち日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜 16 人以内）
・昭和 30 年　開校
・平成 29 年　普通科総合選択制から普通科専門コース設置校に改編（「看護医療コース」、「幼児教育コース」）
　　「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」を実施（実施の府立高校７校中、唯一の普通科高校）

② 特色ある取組み

・３年間を通して、多文化を学び、交流し、共生する取組みを進めている。
・２年次より、文系、理系の他、「看護医療コース」と「幼児教育コース」に分かれる。
・特色ある学校設定科目として、「ニイハオ中国語Ⅰ」や「ハングルⅠ」などがある。
・「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」で入学した生徒は「くろーばぁ生」という愛称で呼ばれている（高校３年間で「知・絆・技・夢」の４つを身につけてほしいという思いが四つ葉のクローバーに重ねられている）。
・日本語の習熟度に応じて抽出授業を少人数で開講し、「日本語、母国語、その他の教科」の学習を充実したサポート体制で支援している。
・「くろーばぁ生」は多文化研究部に所属し、日本語を学ぶ。学校行事において多文化の発表に取り組むなど、自らのルーツに自信を持つための活動を進めている。

③ 施設設備等

・多文化研究部の主な活動場所として、多文化教室を設置。
・新大阪駅近くに所在しており、生徒は府内広域から通学できる。

④ 成果

・外国にルーツのある生徒との交流により、日本人生徒も多様な価値観に触れ、多文化を学び、共生する力を育むことができる。
・「学びたい！」という「くろーばぁ生」の熱意が先生方を突き動かす原動力になっている。

【岡山県立岡山操山高等学校】（岡山県岡山市）

① 学校概要

・併設型中高一貫教育校　中学校３学級 120 人、
　　高等学校全日制普通科７学級 280 人（内進生を含む）及び通信制普通科 500 人
・平成 13 年　「岡山県立岡山操山中学校」設置（併設型）
・平成 27 年～令和元年　スーパー・グローバル・ハイスクール（ＳＧＨ）指定
・令和２年 ～令和５年　ワールド・ワイド・ラーニング（WWＬ）　カリキュラム開発拠点校指定

② 特色ある取組み

・全日制の課程は単位制であり、自分の進路に応じた科目選択が可能。
・英語や数学については、１年次より個々の学習進度や希望の進路に応じた習熟度別少人数授業を行っている。
・総合的な探究の時間「未来航路」、「ＳＯＺＡＮ国際塾」や「ＧＬＯＢＡＬ　ＳＴＵＤＩＥＳ」等の特徴的な取組みを通して、自ら考え、主体的に行動し、責任を持って社会変革を実現していく力を備えたグローバル・リーダーの育成を目指した教育活動を展開している。
・内進生と外進生は同じ授業形態。

③ 施設設備等

・校舎２階の廊下を中心に、開放感のある構造になっている。
・図書室は司書教諭のアイディアや工夫が凝らされたレイアウトになっている。中学生も高校生も利用することから、様々なコーナーが用意されており、カフェのような雰囲気で利用できるため、学びの場として生徒からも好評である。

④ 成果

・「国際塾」では、理系のコンテストやディベート、社会貢献活動などの特色ある活動を通して、生徒の主体性やプレゼンテーション能力を高めている。
・「未来航路」でのグループディスカッションや教科横断型授業などのプログラムを通して、大学入試での総合型選抜や学校推薦型選抜等にも対応している。

【高知県立高知国際高等学校】（高知県高知市）

① 学校概要

・併設型中高一貫教育校、国際バカロレア（ＩＢ）認定校、中学校夜間学級
　　中学校２学級 80 人
　　高等学校全日制グローバル科（グローバルコース、ＤＰコース）２学級 80 人（内進生を含む）、普通科５学級 200 人
・平成 29 年　「高知県立高知国際中学校」及び「高知国際高等学校」設置決定
　　（「高知県立高知南中学校・高等学校」及び「高知県立高知西高等学校」による統合）
・平成 30 年　「高知県立高知国際中学校」開校
・令和２年　国際バカロレア機構からＭＹＰ（ミドル・イヤーズ・プログラム）認定校に認定
・令和３年　「高知県立高知国際高等学校」開校
　　国際バカロレア機構からＤＰ（ディプロマ・プログラム）認定校に認定

② 特色ある取組み

・高等学校のグローバル科では、１年次まではＭＹＰに取り組み、ＤＰコースにおいては、１年次後期からＤＰを実践している。
・普通科においても、グローバルな視点を持って地域やグローバルな課題について探究する「グローバル・シチズンシップ・プログラム」を実施。普通教科においてもＩＢ教育の取組みを生かした教育活動の充実に努めている。
・令和３年４月より、中学校において夜間学級が設置された。
（高知県立日高特別支援学校高知しんほんまち分校と同居）

③ 施設設備等

・ＩＢで使用する教室のネーミングを、「10 の学習者像」に該当する名称（例：「バランスのとれた人」、「知識のある人」、「思いやりのある人」など）とし、授業に入る前の意識を高めるための効果などを期待している。
・身体障害者やトランスジェンダーにも対応している「だれでもトイレ」を設置している。
・「ランチルーム」には、大型スクリーンや音響設備が充実され、集会を開くこともできる。

④ 成果

・ＤＰの取組みを通して、生徒は表現力や言語化の能力を高めることができ、進路実績にも良い影響を与えている。
・普通科とグローバル科と協働した教育活動を展開。また、中学校３年生～高校３年生において、縦割ゼミ方式で探究活動を実施。
・ＩＢでの取組みの成果（生徒のがんばり、教員が得たＩＢ教育のノウハウなど）を県全体に波及することを期待。

【高知県立高岡高等学校】（高知県土佐市）

① 学校概要

・全日制普通科２学級 80 人、定時制普通科１学級 40 人
・平成 29 年　全日制学年制から全日制単位制への改編
・令和４年　　配信拠点型遠隔授業の受信校となる（単位認定を伴う遠隔授業開始）

② 特色ある取組み

・土佐市唯一の普通科高校として、小規模校の特性を生かし、一人一人の生徒の能力や個性の伸長を図り、生涯にわたって「自己実現できる基礎」を培えるよう、将来社会人として自立するとともに、社会や地域の発展に貢献できる人材を育成している。
・キャリア教育を推進し、毎朝のデイリートレーニングや金曜のウィークリーテストを通した学び直しにも取り組んでいる。
・教育センターと高校をつなぐ遠隔教育システムによる授業や補習・講演を行うとともに、一人１台タブレットを使用したＩＣＴを活用した取組みを進めている。
・特別支援教育コーディネーターを中心に、スクールカウンセラー（ＳＣ）やスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）等の連携により、悩みや相談に対処できるよう、個別支援体制を充実させている。
・高岡地区の企業に通じている就職アドバイザーの協力を得て、生徒と企業とのミスマッチを起こりにくくし、福祉就労にも対応している。

③ 施設設備等

・遠隔授業用教室には、モニター、マイクスピーカー、カメラ等がセッティングされている。授業はすべてリアルタイムの双方向で行われている。高岡高校では、「数学Ⅱ」を実施。
・食堂と多目的室を備える「藤並館」は、全国レベルで活躍しているレスリング部の活動場所にもなっている。

④ 成果

・授業の柔軟な運用やきめ細かな支援などを通して、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への教育活動を実践。
・少人数習熟度別の授業展開など、手厚い指導をすることができ、生徒の幅広い進路希望先に応えている。
・遠隔授業を通して、小規模校であっても、難関大学にも対応できる学びを保障している。
・「進学も就職もできる学校」、「リスタートができる学校」として広く知られるようになった。
・地域が高岡高校を必要としており、卒業生の協力も得ながら、生徒が地域企業に残る流れがある。